

枚方公済病院 認定看護師通信

1・2・3月号(2か月毎発行)VOL.52

活動報告

「日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2021」

2021年8月に摂食嚥下リハビリテーション学会に参加してきました。今回は、そこで発表された「嚥下調整食学会分類2021」について説明したいと思います。この分類は、日本摂食嚥下リハビリテーション学会が2013年に公表したものを改訂したもので、病院・施設・在宅医療および福祉関係者が共通して使用できることを目的に、食事5段階およびとろみ3段階について段階分類をしています。実際に嚥下障害を持つ方が転院や施設へ退院する場合、食事形態を学会分類を用いて説明することができます。今回の改訂で変更となった一部を紹介致します。

★学会分類2021では、コード4の「他の分類との対応」のUDF区分に「舌でつぶせる」が追加されました。

学会分類2021		他分類	
学会分類2021	UDF	UDF	UDF
0t 嚥下調整食 0t	0	0t (嚥下食)	0
1t 嚥下調整食 1t	1	1t (嚥下食)	1
2-1 嚥下調整食 2-1	2	2-1 (嚥下食)	2
2-2 嚥下調整食 2-2	2	2-2 (嚥下食)	2
3 嚥下調整食 3	3	3 (嚥下食)	3
4 嚥下調整食 4	4	4 (嚥下食)	4

UDF(ユニバーサルデザインフード)の表記がある食品が増えきたため、官能評価を実施。互換性を調整し、L4にも「舌でつぶせる」を追加。

舌でつぶせる



ここは変更ありません

★学会分類2021(とろみ)早見表の「シリンジ法による残留量」が追加されました。

	段階1: 薄いとろみ(Ⅲ-3項)	段階2: 中程度のとろみ(Ⅲ-2項)	段階3: 濃いとろみ(Ⅲ-4項)
英語表記	Mildly thick	Moderately thick	Extremely thick
性状の説明(飲んだとき)	「drink」という表現が適切なとろみの程度 - 口に入れると口腔内に広がる液体の種類・量や温度によっては、とろみが付いていることがあまり気にならない場合もある - 飲み込む際に大きな力を要しない - ストローで容易に吸うことができる	- 明らかにとろみがあることを感じ、かつ「drink」という表現が適切なとろみの程度 - 口腔内での流動性はゆっくりですべくは広がらない - 舌の上でまとめやすい - ストローで吸うのは抵抗がある	- 明らかにとろみが付いていて、まとまりがよい - 送り込むのに力が必要 - スプーンで「eat」とするとのみ程度 - ストローで吸うことは困難
性状の説明(見たとき)	- スプーンを傾けるととろみは流れ落ちる - フォークの歯の間から素早く流れ落ちる - カップを傾け、流れ出した後には、うっすらと跡が残る程度の付着	- スプーンを傾けるととろみは流れ落ちる - フォークの歯の間からゆっくりと流れ落ちる - カップを傾け、流れ出した後には、全体にコーティングしたように付着	- スプーンを傾けても、形状がある程度保たれ、流れにくい - フォークの歯の間から流れ出ない - カップを傾けても流れ出ない(ゆっくりと塊となって落ちる)
粘度(mPa・s)【Ⅲ-5項】	50-150	150-300	300-500
シリンジ法による残留量(ml)【Ⅲ-7項】	2.2-7.0	7.0-9.5	9.5-10.0

ここは変更ありません



今までのLST値では同じ粘度でも溶媒によって比較が困難(油が入ると広がりやすい)だったため、簡易に計測できるシリンジ法として10mlのシリンジに10mlの試料を入れ自然落下させ、10秒後の残留量を計測を記載。

★その他

量・栄養成分の規定の非表示についてや、嚥下調整食と咀嚼能力についてなど、他にも変更点があります。詳しくは日本摂食嚥下リハビリテーション学会のホームページをご覧ください。

<https://www.jsdr.or.jp/doc/classification2021.html>

摂食・嚥下障害看護認定看護師 日向美樹



認定看護師の豆知識



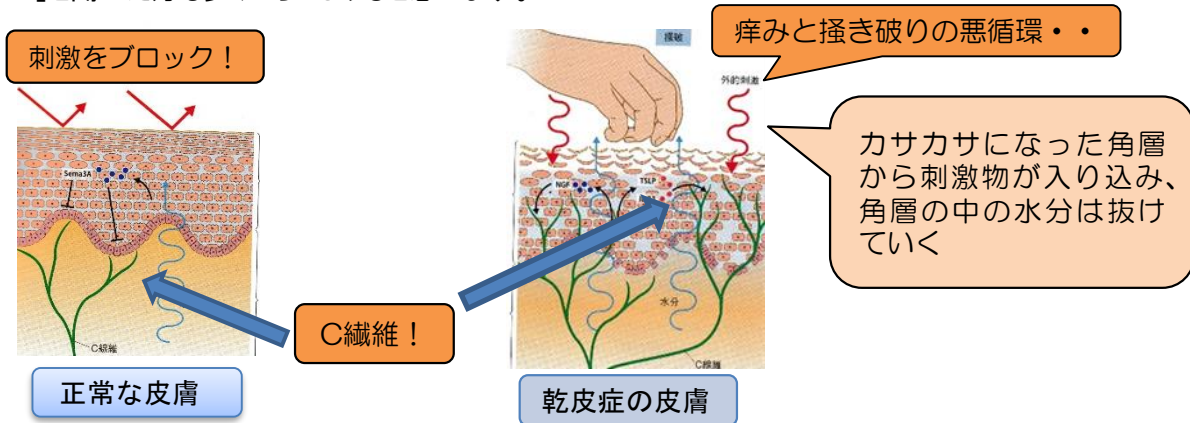
～老人性乾皮症 保湿ケア方法～

北風がピープー吹く寒い季節になりました。つつい暖房の温度を上げてしまい、乾燥のせいで静電気に怯える日々ですが、皆さんはいかがでしょう？？

今回は高齢者に生じる痒みで最も多い老人性乾皮症とケア方法のお話です。

乾燥した皮膚はバリア機能が低下して、角層の密な構造が崩れ、外界からアレルゲンや微生物など刺激物質が侵入しやすくなり、感染症の原因にもなります。

でも、一番の問題は痒みを生じることです！患者さんから「痛いのは我慢できるけ痒いのはたまらんのよ～」と聞いた方も多くいらっしゃると思います。



バリア機能の破綻によりC繊維という痒み神経が表皮近くまで伸びることが痒みを助長します。痒みに対する看護で重要なのは、皮膚の保清・保湿・二次損傷の予防です。

「痒い」という辛さを理解し、精神的な援助も必要になります。

清拭での保清は、摩擦で皮脂を除去してしまうため、状態によってはリモイスクレンズなどの皮膚保護・洗浄クリームを使用しましょう。特に痒み強い時には冷やしてあげるのも一つの手です。保湿剤は一日に数回塗るとより効果があります。塗布のポイントは、手袋で伸ばして、抑えるように塗ることです。伸びている爪は2次損傷につながります。適宜、爪も切ってあげましょう。

皮膚・排泄ケア認定看護師 大西千代



病棟ごとの勉強会 依頼受付中！

認定看護師会では病棟ごとの勉強会、研修の依頼を受け付けています。

既存のテーマでも、看護で困っていることなんでも結構です。

リクエストお待ちしております！



各分野電話番号



救急看護:村上 8863
慢性心不全看護:原谷 8394
感染管理:篠原 8623
感染管理:矢田 8116
皮膚排泄ケア:大西 8397
認知症看護:藤原 8667
がん化学療法:多賀 8845
摂食・嚥下:日向 8113